

千葉県袖ヶ浦市
埋蔵文化財発掘調査報告書
福王丸塚古墳
中六遺跡 (19)
大窪遺跡 (2)

2016

袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市
埋蔵文化財発掘調査報告書

ふくおうまるづか
福王丸塚古墳

ちゅうろ
中六遺跡 (19)

おおくほみ
大窪遺跡 (2)

2016

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、東京湾東岸のほぼ中央に位置し、清澄山系に端を発する小櫃川により形成された平野部に広がる田園地帯と、その北側に広がる台地や丘陵、沿岸部の工場地帯からなります。近年では、東京湾アクアラインや首都圏中央連絡自動車道の整備による交通利便性を活かし、首都圏のベッドタウンとしても発展を遂げており、市内各所で開発が進んでおります。

このような開発は、埋蔵文化財包蔵地内でも多く計画されています。その際には可能な限り埋蔵文化財が保存されるように、事業者の方にもご協力をいただいておりますが、埋蔵文化財への影響が避けられないこともあります。本市には、500を超える埋蔵文化財が所在していますが、いずれも郷土の歴史を物語る貴重なものです。

そこで本市では、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録による保存の措置をとっております。今回報告いたします福王丸塚古墳^{ふくおうまるづか}、中六遺跡^{ちゅうろ}、大窪遺跡^{おおくぼみ}もまた、開発により失われる埋蔵文化財でしたが、事業者や地権者のご理解とご協力のもと、発掘調査を行うことといたしました。本書は、その成果を取りまとめたものであります。そして、多くの市民の皆さまが、この報告書を手に取り、遙か太古の袖ヶ浦に思いを馳せて頂ければ幸いに存じます。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々には、発掘調査から本書の刊行に至るまでご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。また、土地所有者及び関係者の皆様には、ご理解とご協力を頂きましたことに改めて感謝申し上げます、刊行のあいさつといたします。

平成28年3月

袖ヶ浦市教育委員会

教育長 川島 悟

例 言

1. この報告書は、平成 24 年度に発掘調査を実施した福王丸塚古墳、平成 25 年度に発掘調査を実施した中六遺跡第 19 次調査、大窪遺跡第 2 次調査を収録した発掘調査報告書である。
2. 調査は、千葉県教育委員会の指導を受け、発掘調査から整理作業までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査ならびに整理作業期間は、以下のとおりである。

| | |
|--------------|---|
| 福王丸塚古墳 | 平成 24 年 6 月 20 日～同年 6 月 29 日、平成 27 年 12 月 1 日～同年 12 月 7 日 |
| 中六遺跡第 19 次調査 | 平成 25 年 8 月 19 日～同年 8 月 20 日、平成 27 年 12 月 8 日～同年 12 月 18 日 |
| 大窪遺跡第 2 次調査 | 平成 26 年 1 月 14 日～同年 1 月 17 日、平成 28 年 12 月 21 日～同年 12 月 28 日 |
4. 各遺跡の所在地は、以下のとおりである。

| | |
|--------------|--------------------------|
| 福王丸塚古墳 | 袖ヶ浦市福王台 4 丁目 4 番 16・22 他 |
| 中六遺跡第 19 次調査 | 袖ヶ浦市蔵波字大谷 1, 233 番 15 |
| 大窪遺跡第 2 次調査 | 袖ヶ浦市蔵波 2, 520 番 1 |
5. 各遺跡の発掘調査ならびに整理作業・報告書作成の担当者は、以下のとおりである。

| | | |
|--------------|-------------|----------------|
| 福王丸塚古墳 | 発掘調査： 桐村久美子 | 整理・報告書作成： 田中大介 |
| 中六遺跡第 19 次調査 | 発掘調査： 西原崇浩 | 整理・報告書作成： 田中大介 |
| 大窪遺跡第 2 次調査 | 発掘調査： 前田雅之 | 整理・報告書作成： 田中大介 |
6. 本書の執筆者は、以下のとおりである。

| | | |
|--------|-------------------|----|
| 序章 1～3 | 前田、序章 4・第 2 章～4 章 | 田中 |
|--------|-------------------|----|
7. 報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。

| | | | |
|---------|---------|--------------|----------------|
| 第 1 図 | 国土地理院発行 | 1/25,000 地形図 | 奈良輪・姉崎 |
| 第 2・3 図 | 袖ヶ浦市発行 | 1/2,500 地形図 | No.12、17 |
| 第 5 図 | 袖ヶ浦市発行 | 1/2,500 地形図 | No.13、14、18、19 |
| 第 7 図 | 袖ヶ浦市発行 | 1/2,500 地形図 | No.12 |
8. 本書で使用したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘調査時のものを使用した。
9. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管している。
10. 各遺跡のコードは、福王丸塚古墳（SG 116）、中六遺跡（SG 013）、大窪遺跡（SG 075）である。
11. 中六遺跡の調査はこれまで 20 回実施され、今回の報告は第 19 次調査に当たる。また、大窪遺跡の調査は本報告を含めこれまで 2 回実施された。各遺跡の各調査回数については、遺跡名の後に括弧付けで表記している。
(例：中六遺跡第 19 次調査→中六遺跡 (19))
12. 調査から報告書刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位のご協力をいただいた。記して謝意を表したい。

凡 例

1. 挿図の縮尺は各図に明記した通りである。図に示す方位は福王丸塚古墳を座標北とし、中六遺跡と大窪遺跡を磁北とした。標高値の単位はcmまでとした。
2. 各挿図に示した座標は世界測地系に即した。

目 次

| | |
|------------------|---|
| 序文 | |
| 例言・凡例 | |
| 序 章 調査概要 | 1 |
| 1. 調査に至る経緯 | |
| 2. 調査経過 | |
| 3. 調査組織 | |
| 4. 遺跡の立地と周辺の遺跡 | |
| 第2章 福王丸塚古墳 | 4 |
| 1. 調査の概要 | |
| 2. 調査の成果 | |
| 3. まとめ | |
| 第3章 中六遺跡第19次調査 | 6 |
| 1. これまでの調査の経緯と概要 | |
| 2. 調査の成果 | |
| 3. まとめ | |
| 第4章 大窪遺跡第2次調査 | 9 |
| 1. これまでの調査の経緯と概要 | |
| 2. 調査の成果 | |
| 3. まとめ | |

挿 図 目 次

| | |
|-------------------|---------------------------------|
| 第1図 調査遺跡と周辺遺跡分布図 | 第6図 中六遺跡(19)調査範囲及び土層断面模式図、遺物実測図 |
| 第2図 福王丸塚古墳周辺地形図 | 第7図 大窪遺跡周辺地形図 |
| 第3図 福王丸塚古墳トレンチ配置図 | 第8図 大窪遺跡(1)、(2)全体図 |
| 第4図 福王丸塚古墳トレンチ実測図 | 第9図 大窪遺跡(2)遺構、遺物実測図 |
| 第5図 中六遺跡周辺地形図 | |

表 目 次

| | |
|--------------------|-------------------|
| 表1 中六遺跡(19)出土遺物一覧表 | 表3 大窪遺跡(2)出土遺物一覧表 |
| 表2 中六遺跡(19)出土礫の内訳 | |

図 版 目 次

図版1 福王丸塚古墳、中六遺跡(19)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 福王丸塚古墳1トレンチ完掘 | 6. 中六遺跡(19)調査区土層断面 |
| 2. 福王丸塚古墳1トレンチ土層断面 | 7. 中六遺跡(19)出土縄文土器 |
| 3. 福王丸塚古墳2トレンチ完掘 | 8. 中六遺跡(19)出土縄文時代石器 |
| 4. 福王丸塚古墳2トレンチ北東端近景 | 9. 中六遺跡(19)出土古墳時代土師器 |
| 5. 中六遺跡(19)調査区完掘 | |

図版2 大窪遺跡(2)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 調査区全景 | 5. F P 001、002 完掘② |
| 2. F P 001、002 土層断面 | 6. F P 003 完掘① |
| 3. F P 002 土層断面 | 7. F P 003 完掘② |
| 4. F P 001、002 完掘① | 8. 出土縄文土器 |

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

福王丸塚古墳

宅地造成の計画に伴い、事業者より平成 24 年 4 月 10 日に埋蔵文化財の所在の有無についての問い合わせがあった。工事箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である福王丸塚古墳に該当することを回答した。事業の実施に先立ち、埋蔵文化財発掘の届出の提出を依頼し、平成 24 年 5 月 21 日付けで提出された。事業地は過去の区画整理により削平されていたが、一部が福王丸塚古墳墳丘にあたることが予想されたため、事業者と協議した結果、袖ヶ浦市教育委員会が 112 m²を対象とした確認調査を実施することとなった。

中六遺跡第 19 次調査

個人住宅建設の計画に伴い、事業者より平成 25 年 7 月 26 日に埋蔵文化財の所在の有無についての問い合わせがあった。工事箇所は、周知の埋蔵文化財包蔵地である中六遺跡に該当することを回答した。事業の実施に先立ち、埋蔵文化財発掘の届出の提出を依頼し、平成 25 年 7 月 29 日付けで提出された。発掘の届出の提出を受けて平成 25 年 8 月 19 日に、発掘調査の必要性を確認するため試掘調査を行ったところ、縄文時代早期遺物包含層を確認した。事業者と協議した結果、浄化槽設置箇所においては現状保存が困難であるため、袖ヶ浦市教育委員会が 7 m²の本調査を実施した。

大窪遺跡第 2 次調査

市道拡幅工事の計画に伴い、袖ヶ浦市農林土木課より平成 25 年 7 月 9 日付けで、埋蔵文化財の取扱いについて協議があった。そして、平成 25 年 7 月 16 日付け袖教生第 1067 号で、周知の埋蔵文化財包蔵地の大窪遺跡である旨を回答し、事業の実施に先立ち、埋蔵文化財発掘の通知の提出を依頼した。埋蔵文化財発掘の通知は、袖ヶ浦市長から平成 26 年 1 月 6 日付けで提出された。大窪遺跡は隣接地において、確認調査が実施され、炉穴等が確認されている。今回の工事箇所でも土器の散布が見られたことから、遺構・遺物が所在することが予想され、平成 25 年 10 月 10 日に試掘調査を行ったところ、縄文時代早期遺物包含層が検出された。現状保存が困難なため、袖ヶ浦市教育委員会が事業範囲 90 m²を対象とした確認・本調査を実施した。

2. 調査経過

福王丸塚古墳

平成 24 年 6 月 20 日：トレンチ掘削（人力） 6 月 21 日：遺構確認作業・平面実測・断面実測・写真撮影
6 月 22～28 日：作業中止 6 月 29 日：埋戻し（人力）

中六遺跡第 19 次調査

平成 25 年 8 月 19 日：表土除去（重機）・遺構確認作業 8 月 20 日：平面実測・写真撮影・埋戻し（重機）

大窪遺跡第 2 次調査

平成 26 年 1 月 14 日：表土除去（重機） 1 月 15 日：遺構確認作業 1 月 16 日：遺構精査・写真撮影
1 月 17 日：平面実測・断面実測・埋戻し（重機）

3. 調査組織

袖ヶ浦市教育委員会

平成 24 年度（福王丸塚古墳発掘調査）

教育長 川島 悟
教育部長 茂木 好明
教育部次長 篠原 幸一（平成 24 年 8 月 28 日まで）
教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇
文化振興班長 西原 崇浩
副主幹 桐村 久美子（担当者）
副主査 田中 大介
副主査 前田 雅之

平成 25 年度（中六遺跡・大窪遺跡発掘調査）

教育長 川島 悟
教育部長 蔭山 弘
教育部次長 鈴木 和博
教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇
副課長兼文化振興班長 西原 崇浩
副主幹 桐村 久美子（中六遺跡担当者）
副主査 田中 大介
副主査 前田 雅之（大窪遺跡担当者）

平成 27 年度（整理作業・報告書刊行）

教育長 川島 悟
教育部長 鈴木 和博
教育部次長 森田 泰弘
教育部参事兼生涯学習課長 原田 光雄
副課長兼文化振興班長 西原 崇浩
副主査 田中 大介（担当者）
副主査 前田 雅之
主任主事 大河原 務

4. 遺跡の立地と周辺の遺跡（第 1 図）

まず、本報告で取り上げる 3 遺跡周辺の地形について概観する。

3 遺跡が所在する袖ヶ浦市域の地形は、下総台地南端部にあたる北部の台地（袖ヶ浦台地）と小櫃川によって形成された南部の沖積低地に区分される。袖ヶ浦台地は養老川と小櫃川に挟まれた北西—南東方向に細長い地形を呈する。袖ヶ浦市域の北部においてはその南東から北西の東京湾に向かって、北側から笠上川、浜宿川、久保田川、蔵波川、境川の小河川が注いでいる。これらの河川的作用により台地が樹枝状に開析され複雑な地形を呈する。3 遺跡はいずれも袖ヶ浦台地に所在し、福王丸塚古墳と大窪遺跡は現在の台地北西側縁辺に、中六遺跡は現在の台地北西側縁辺から南東方向に約 2 km に所在する。これらの遺跡が立地する台地北西側縁辺は、約 6,000 年前に最盛期を迎えるいわゆる縄文海進以前はさらに西側に伸びて波食台を形成していたようであるが、温暖化に伴う海面上昇が進行する縄文時代早期後葉以降、沿岸流による海食をうけ、今から約 4,000 年前の縄文時代後期には現在の袖ヶ浦台地西縁とほぼ同様な崖線が形成されたと考えられている。そのため、縄文海進以前の縄文時代早期の遺跡は、現在の台地西縁よりもさらに西側に存在していた可能性が考えられる。

次に各遺跡の立地と周辺遺跡について概観する。

福王丸塚古墳は袖ヶ浦台地南西部の標高約15mの台地縁辺に立地する。前述したように北西側は崖となっており、北東側の台地下は境川の河口となっている。北東側160mには上奈良輪遺跡が所在する。遺跡範囲内の一部は現在大六天神社の境内となっているが、かつては福王神社の社地であった。遺跡内に所在する上奈良輪古墳は、発掘調査が実施されていないため不明確であるが、現在「長見塚」と称され、明和年間(1,651～1,746)に記された『奈良輪實録』においては「上奈良輪之塚」、江戸時代後期に描かれた奈良輪村絵図では「伊之右衛門塚」と称される塚に相当する可能性が高い。福王台地区造成時に発掘調査を実施していないため、周辺遺跡の詳細については不明確なところが多いが、唯一調査した事例として、南東240mに所在する山王台遺跡では、縄文時代早期の炉穴、弥生時代中・後期、古墳時代前・中期の住居、奈良・平安時代の火葬墓が検出された。

中六遺跡は蔵波川中流域左岸の標高40～45mの台地上に立地する。これまで20回の調査が実施され、縄文時代早期の貝層を伴う炉穴群、古墳時代前期の集落、同前・中期の古墳等が検出された。

大窪遺跡は境川中流域右岸の標高約33mの台地縁辺に立地する。これまで2回の調査が実施され、野島式、茅山下層式期と考えられる炉穴群が検出された。

中六、大窪両遺跡の今回の調査では縄文時代早期の遺構、遺物が主体的に検出されたので、周辺の同時期の遺跡を概観する。蔵波川上流域の堂庭山B遺跡、子者清水遺跡、正源戸遺跡では縄文時代早期後葉子母口式～茅山式期の炉穴が検出され、浜宿川下流域の八重門田遺跡でも子母口式期とされる炉穴が検出されている。また、久保田川上流域の豆作台遺跡では鶺鴒台式、条痕文期とされる住居が検出されている。南側の境川上流域左岸の百々目木C遺跡では条痕文期の炉穴が比較的多く検出され、境川中流域右岸の寒沢遺跡では鶺鴒台式、茅山下層式を中心とする貝層を伴う炉穴群が検出された。このように中六、大窪両遺跡周辺では縄文時代早期後葉条痕文期の遺跡が多く分布するが、中六、寒沢両遺跡はその中でも突出して規模が大きく、一部断絶期間を挟むものの、比較的長期にわたり営まれた拠点的な活動の場であったと考えられる。

※紙幅の都合上、参考文献は割愛した。



第1図 調査遺跡と周辺遺跡分布図 (S = 1/50,000)

第2章 福王丸塚古墳

1. 調査の概要

福王丸塚古墳の調査は今回初めて実施された。また、周辺の遺跡についても、福王台地区造成時に発掘調査を実施していないため、南西側約240 mに所在する山王台遺跡以外詳細は不明である。

福王丸塚古墳は、主要地方道袖ヶ浦・中島・木更津線直上の標高約15 mの台地縁辺に立地する。古墳推定範囲の南側、特に南東側については台地縁辺と著しい高低差があり、大きく削平されたものと考えられた。そのため、台地縁辺との高低差が比較的小さい古墳推定範囲の南～南西部にトレンチを2本設定し、周溝等の遺構確認を実施した。表土除去は人力で行い、造成時の盛土層除去後に検出された明褐色土を遺構確認面とした。

調査の結果、両トレンチから遺構、遺物は検出されなかった。

2. 調査の成果

1 トレンチ

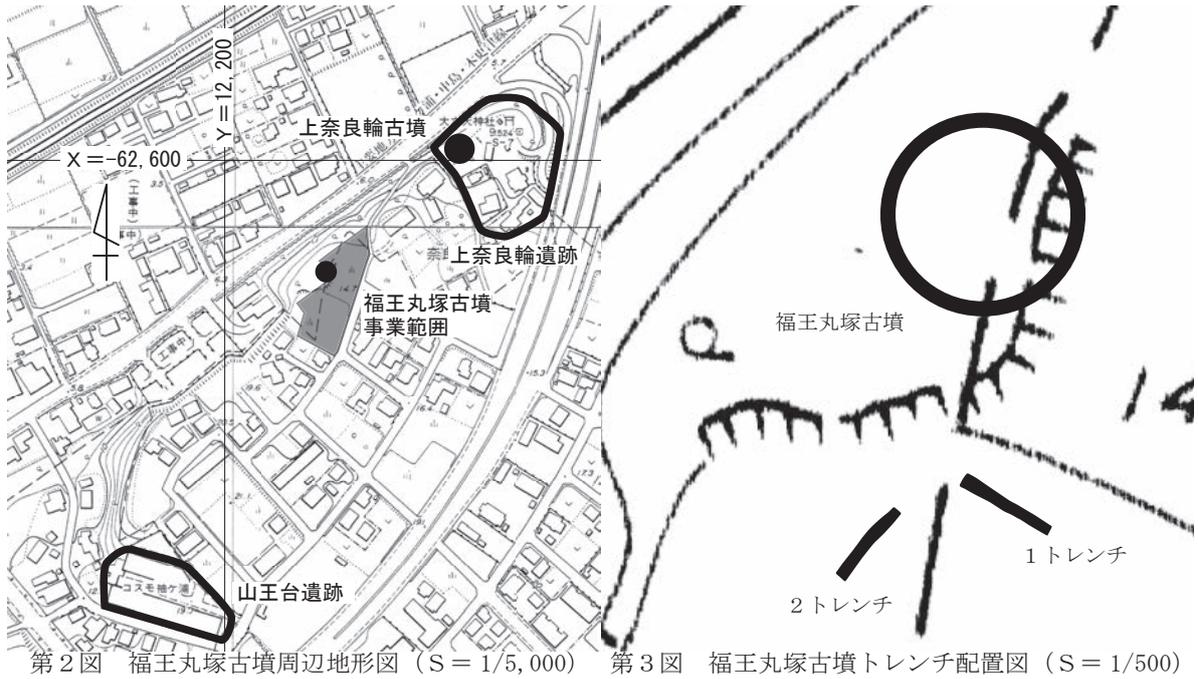
福王丸塚古墳推定範囲の南側に、北西－南東方向に、長さ6.2 m、幅0.5～0.8 mの規模で設定した。トレンチ設定箇所は現地表面は北西から南東方向に傾斜しており、その高低差は0.7 mを測る。調査の結果、遺構確認面はロームと思われる明褐色土で、現地表面と同様に北西から南東方向に傾斜している。ただし、北西端から南東へ1.4 mは比較的急に傾斜し、高低差0.7 mを測る。そこから南西に1.4 mは平坦面となり、さらに南東側へ向かって緩やかに傾斜し0.5 m程低くなり南東端に向って平坦となる。覆土はロームブロック主体の埋め戻し土となることから、これら遺構確認面の変化は最近の掘削に伴うものと考えられる。遺構、遺物は検出されなかった。

2 トレンチ

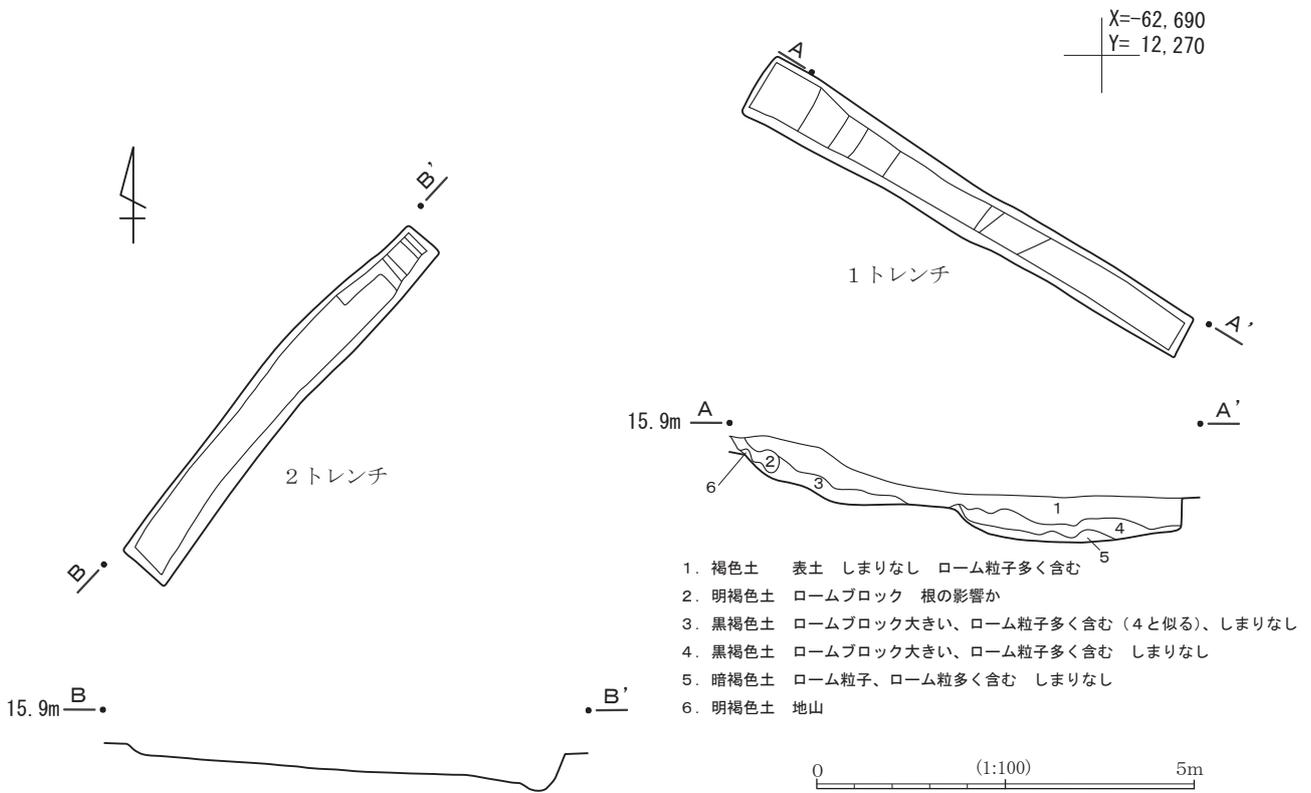
福王丸塚古墳推定範囲の南東側に、北東－南西方向に、長さ5.5 m、幅約0.5 mの規模で設定した。トレンチ設定箇所は現地表面はほぼ平坦であるが、遺構確認面としたロームと思われる明褐色土は南西から北東に向ってやや傾斜し、南西端と北東端の高低差は0.3 mを測る。覆土は明褐色土で、遺構確認面直上に炭化物を多く含む。北東端の遺構確認面下をやや掘り下げて、土層を確認したところ、約0.15 m下で、淡褐色の砂質層が確認された。遺構、遺物は検出されなかった。

3. まとめ

福王丸塚古墳の初めての調査であったが、調査時の現況を確認すると、台地縁辺以外の古墳推定範囲南側は全体的に削平されていると考えられた。調査の結果、比較的削平が弱いと考えられた古墳推定範囲南～南西側においても遺構確認面まで削平が確認された。遺構、遺物も検出されなかったため、遺跡の時期や削平時期については確認できなかった。



第2図 福王丸塚古墳周辺地形図 (S = 1/5,000) 第3図 福王丸塚古墳トレンチ配置図 (S = 1/500)



第4図 福王丸塚古墳トレンチ実測図

第3章 中六遺跡第19次調査

1. これまでの調査の経緯と概要

中六遺跡は、これまで道路拡幅や宅地造成等に伴い20次にわたる調査が実施されてきた。遺跡北側を中心に調査が実施され、蔵波川によって開析された小支谷の縁辺付近を中心に、縄文時代早期の炉穴群と古墳時代前期の集落、同前～中期の古墳等が検出された。特に第12次調査においては、縄文時代早期子母口式期、茅山下層式期を主体とする炉穴が234基検出され、そのうち9基の炉穴からはハイガイを中心とする貝層が発見された。貝層は子母口式期のものと推定され、県内でも比較的古い時期の貝層として注目される。また、古墳時代前期の住居はこれまでの調査で60軒検出され、第10次調査区より北側を中心に同時期の集落が展開していることが明らかとなった。

第19次調査は、遺跡北側中央部の北側に突出する舌状台地の付け根部からやや北側に位置する。個人宅地の浄化槽部分(1.8×3.9m)の調査のため、7㎡という狭小な調査面積であった。調査は重機により掘り下げ、ソフトローム漸移層を遺構確認面とした。調査範囲全体で縄文時代早期の遺物包含層が確認された。遺構は検出されなかったが、縄文時代早期前葉撚糸文期の土器が比較的多く出土した。

2. 調査の成果

前述のとおり、調査範囲から遺構は検出されなかった。土層は表土から、耕作土(0.45m)、漸移層(褐色土)(0.20m)と堆積しており、漸移層から縄文時代早期前葉撚糸文期の遺物を主体とする遺物が出土した。出土した遺物の内訳は、表1・2のとおりである。

1～6は縄文時代早期前葉撚糸文期の土器である。1、2は口縁部の破片である。1は口唇部がやや肥厚し外反する。胎土に小礫をわずかに含み、色調は内外面赤褐色を呈する。外面に不明瞭ながら撚糸文が施される。夏島式に相当する可能性がある。2は直線的に立ち上がり、口縁端部がやや内傾する。胎土に白色粒子、赤褐色粒子を少量含み、色調は内外面褐色を呈する。外面に縄文RLが疎らに施文される。稻荷台式に相当するものと考えられる。3～6は胴部～底部の破片である。3は胎土に小礫を微量含み、色調は外面が淡褐色、内面が黒褐色を呈する。外面に撚糸文rが施文される。4は胎土に白色粒子を微量含み、色調は外面が橙褐色、内面が暗褐色を呈する。外面に撚糸文lが施文される。5は胎土に白色粒子と微小礫を微量含み、色調は外面橙褐色、内面暗褐色を呈する。外面に撚糸文lが施文される。6は底部付近の破片で、胎土に微小礫を微量含み、色調は外面橙褐色、内面暗褐色を呈する。外面に撚糸文rが施文される。7は石斧である。石英斑岩の扁平な楕円礫を素材とし、基部と側縁を敲打、刃部を剥離と研磨により調整し、片刃状の形態を呈する。8は古墳時代前期土師器高坏の脚部である。調査範囲東端の耕作土と漸移層の境から出土した。脚部上半の全周と脚部下半の一部が遺存する。胎土に小礫を少量含み、色調は、内面が淡褐色、外面は赤彩により赤褐色を呈する。内面調整は横位ケズリで、外面は縦、斜位ミガキとなる。3単位と推定される円形の透孔が施される。坏部は表面の一部が残存し、脚部外面と同様に赤彩が施されるようである。

3. まとめ

本調査は狭小な面積ながらも、縄文時代早期の土器・石器・礫と古墳時代前期の土師器が出土した。近隣

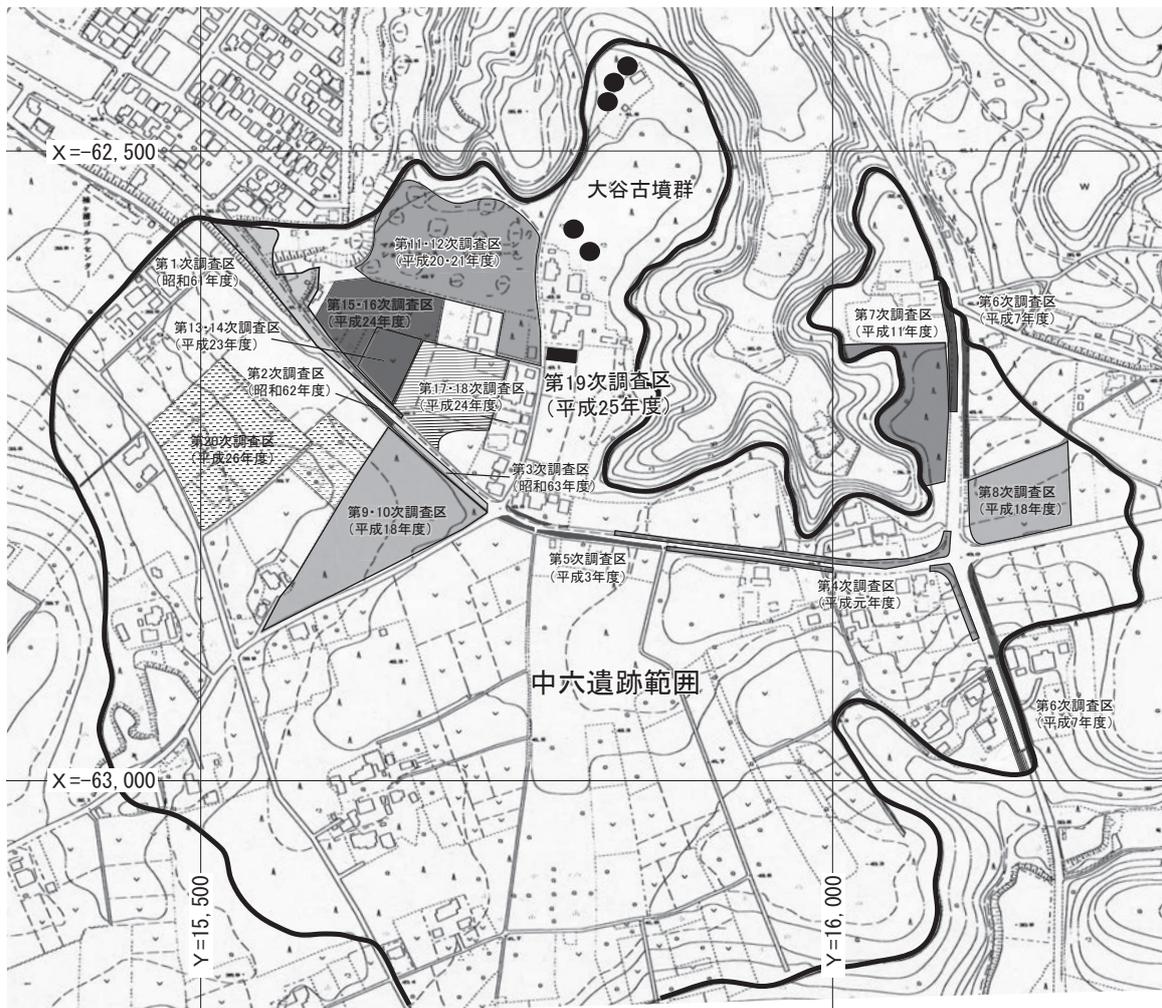
表1 中六遺跡(19)出土遺物一覧表

| 遺物名称 | 点数 | 重量(g) | 内訳 |
|-------------|----|---------|---------------------------------------|
| 縄文時代早期撚糸文土器 | 12 | 163.31 | 夏島1点・9.05g、稲荷台1点・35.36g、不明10点・118.90g |
| 縄文時代早期条痕文土器 | 4 | 23.62 | |
| 縄文時代早期石斧 | 1 | 265.80 | |
| 礫 | 48 | 1229.25 | 内訳は表2参照 |
| 古墳時代前期土師器 | 10 | 103.81 | 高坏1点・58.10g、不明9点・45.71g |

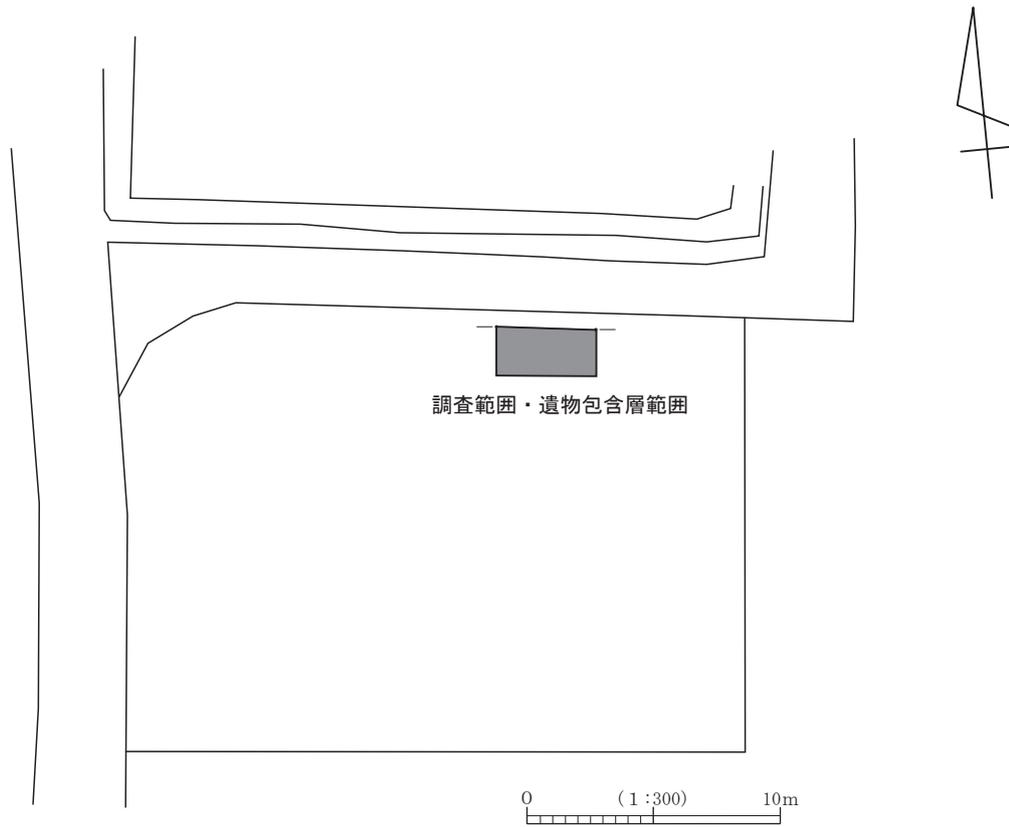
の調査成果より、縄文時代早期の遺物包含層および古墳時代前期の集落が、本調査範囲まで展開している可能性が高まった。縄文時代早期については、第12次調査の成果より、調査範囲の東側に早期中葉沈線文期の土器が集中するのに対し、調査範囲西側に子母口式、茅山下層式を主体とする後葉の土器が集中する状況が確認され、時期により土器の分布が明確に異なることが把握された。今回の調査範囲はその東側に相当し、早期前葉撚糸文期の遺物が主体的に出土した。本調査範囲が狭小な面積であることから断定はできないが、遺跡中央部北側の舌状台地以西においては、台地の東から西へ向かい早期前葉、中葉、後葉と出土遺物の変遷が考えられる。

表2 中六遺跡(19)出土礫の内訳

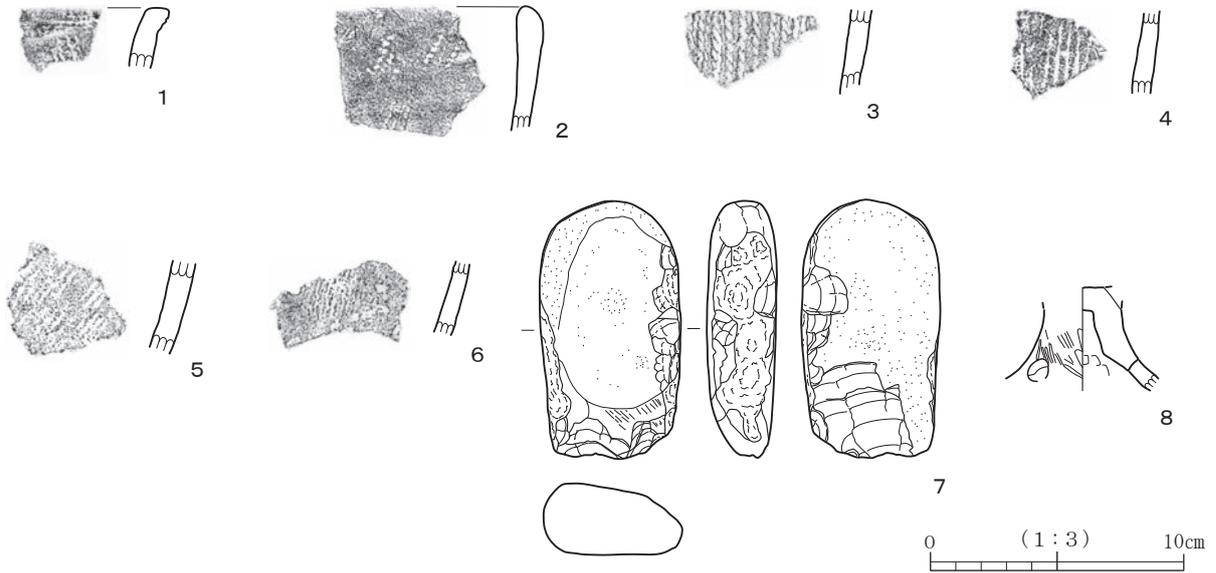
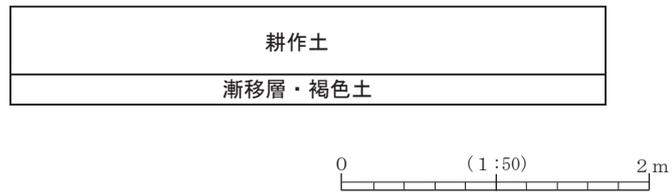
| 礫種 | 遺存 | 点数 | 重量(g) |
|------------|----|----|---------|
| チャート | 完形 | 5 | 137.93 |
| | 欠損 | 13 | 168.15 |
| 流紋岩 | 完形 | 8 | 247.30 |
| | 欠損 | 5 | 89.67 |
| 砂岩 | 完形 | 5 | 210.70 |
| | 欠損 | 6 | 197.25 |
| 泥岩 | 完形 | 1 | 28.90 |
| | 欠損 | 2 | 59.44 |
| 石英斑岩 | 完形 | 1 | 33.97 |
| | 欠損 | 1 | 39.93 |
| アプライト(石英脈) | 完形 | 1 | 16.01 |
| 合計 | | 48 | 1229.25 |



第5図 中六遺跡周辺地形図 (S= 1/6,000)



土層断面模式図



第6図 中六遺跡(19) 調査範囲及び土層断面模式図、遺物実測図

第4章 大窪遺跡第2次調査

1. これまでの調査の経緯と概要

大窪遺跡は、今回の調査を含めこれまで2回の調査が実施された。第1次調査は本調査範囲の南西に近接する墓地造成に伴う調査面積240/2,217㎡の確認調査で、調査範囲の東側を中心に縄文時代早期後葉の炉穴21基、土坑27基が検出された。出土した遺物は縄文時代早期中葉～後葉の土器・石器・礫、古墳時代前期土器、近世陶器・土錘である。このことから、台地縁辺付近に縄文時代早期後葉の炉穴群が展開していることが明らかとなった。なお、第1次調査区は現在盛土保存され、墓地として利用されている。

調査は重機により掘り下げ、ローム漸移層(Ⅱc層)を遺構確認面とした。図面の実測は、道路幅杭を利用した。調査の結果、縄文時代早期後葉の炉穴が3基検出され、早期後葉の土器と礫が出土した。

2. 調査の成果

F P 001：調査範囲西側の1区で検出された。長軸の南側が調査範囲外へ伸びる。残存長軸1.10 m、短軸0.95 m、遺構確認面から底面までの深さ0.45 mを測る。平面形態は長楕円形を呈するものと想定される。断面形態は逆台形状を呈するが、火床面側壁面において若干段を有する。主軸方位はN-46°-Eである。

F P 002と重複するが、新旧関係は不明である。また、確認面下0.25～0.30 mの7層が硬質化し、足場に相当する可能性があることから、やや高いレベルで南側に別の炉穴が重複している可能性も考えられる。火床面は径0.60 mの円形を呈し、その上層に焼土主体の9層と焼土層である10層が厚さ0.20 mで堆積している。出土遺物は縄文時代早期後葉条痕文系土器5点(25.71 g)、流紋岩の完形礫1点(247.46 g)である。

F P 002：調査範囲西側の1区で検出された。大部分が南側調査範囲外に展開している。長軸1.35 m、残存短軸0.28 m、遺構確認面からの深さ0.38 mを測る。平面形態は不明確であるが、北東端部に足場の名残と思われる平坦面が認められることから、長楕円形を呈する可能性がある。断面形態は逆台形を呈する。前述した平面形態を考慮すると、主軸方向はN-112°-Eと想定される。F P 001と重複するが新旧関係は不明である。足場を共有し、火床面を作り直した可能性も考えられる。火床面は南東調査区際に認められる。火床面上の13層は暗黄褐色土を呈し、天井であった可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

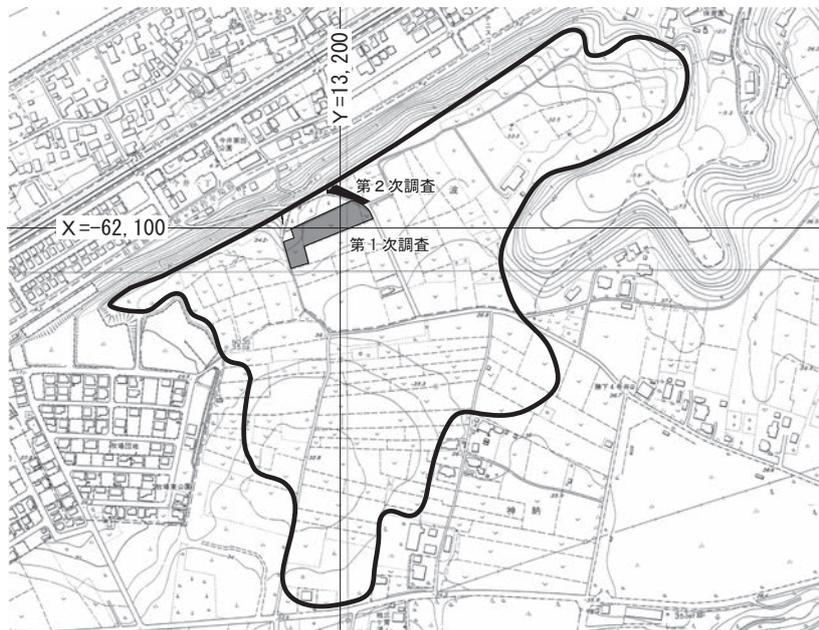
F P 003：調査範囲東側の3区で検出された。北側が調査範囲外に伸びる。残存長軸0.58 m、残存短軸0.45 m、確認面からの深さ0.13 mを測る。平面形は円形～楕円形を呈するであろうか。断面形態は皿形を呈する。主軸方位はN-144°-Eであろうか。北側調査区際に木の根と思われる穴と切りあう。火床面は底面中央から南西側にかけて不整形に認められるが、被熱は弱い。出土遺物は、縄文時代早期後葉条痕文系土器2点(20.54 g)である。

出土遺物：出土遺物の内訳は表3のとおりである。1、2は野島式土器と思われる。1は胎土に繊維と小礫を含み、内外面ともに橙褐色を呈する。外面に横位微隆起線貼り付け後、斜位に条痕文を施す。内面にも斜位に条痕文を施す。2は胎土に繊維を含み、内外面ともに淡褐色を呈する。外面に斜位に90度角度を変化させた微隆起線が貼り付けられる。また、不明瞭ながら内外面に条痕文が施される。3～7は胎土に繊維を含み、内外面に擦痕および条痕文が施される。3は外面に斜位条痕文、内面に縦、斜位条痕文を施した後、連続する刻みを有する横位の粘土紐を貼り付ける。内外面ともに黒褐色を呈する。4は表裏に条痕文が施さ

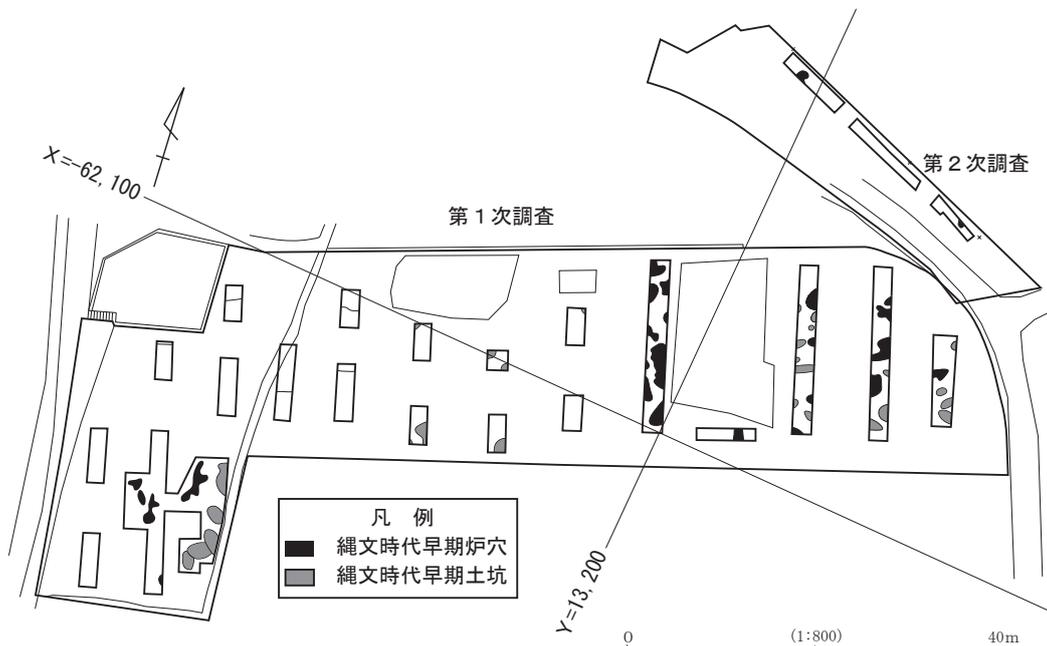
れる。胎土に繊維を含み、内外面ともに黒褐色を呈する。5は外面に擦痕と条痕文、内面に条痕文を施す。外面は橙褐色、内面は黒褐色を呈する。6は内外面ともに擦痕と条痕文を施す。外面黒褐色、内面暗褐色を呈する。7は底部付近の破片である。外面に不明瞭な縦位擦痕が見られる。外面橙褐色、内面暗褐色を呈する。土器の他、縄文時代早期の遺構、遺物に伴うと考えられる礫が6点出土した。

3. まとめ

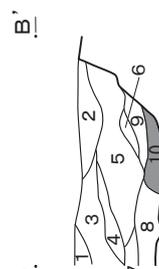
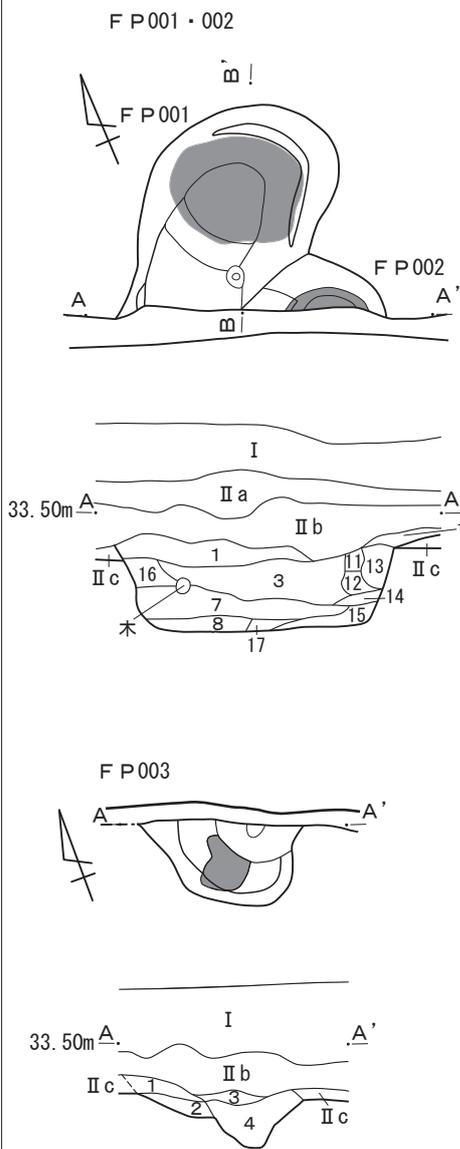
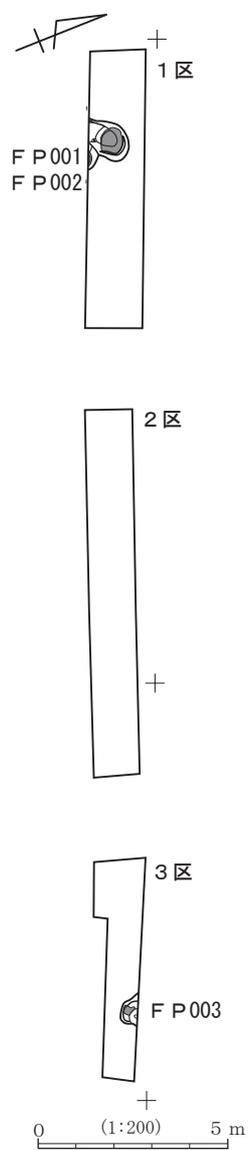
今回の調査により、第1次調査区東側で検出された炉穴群がさらに北側の台地縁辺まで展開していることが明らかとなった。出土遺物は前回の調査と同様に、早期後葉条痕文期、特に野島式、茅山下層式が主体となる。東側に近接する寒沢遺跡では、野島式期～茅山下層式期を中心とする大規模な炉穴群が検出された。本遺跡の炉穴群もほぼ同時期に営まれていたと考えられ、両遺跡の関係については今後の検討課題である。



第7図 大窪遺跡周辺地形図 (S = 1/8,000)



第8図 大窪遺跡(1)、(2)全体図



33.50m

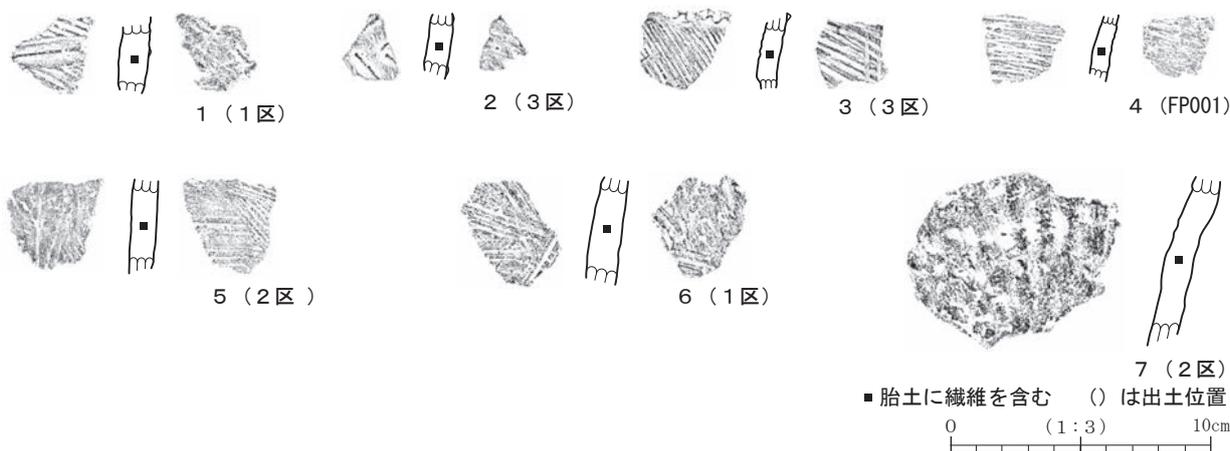
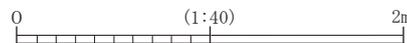
FP001, 002

- I. 表土
 - II a. 黒褐色土
 - II b. 黒褐色土
 - II c. 暗褐色土
 - 1. 暗褐色土
 - 2. 暗褐色土
 - 3. 暗褐色土
 - 4. 暗褐色土
 - 5. 暗褐色土
 - 6. 暗褐色土
 - 7. 暗褐色土
 - 8. 暗褐色土
 - 9. 棕色土
 - 10. 棕色土
 - 11. 暗褐色土
 - 12. 暗褐色土
 - 13. 暗黄褐色土
 - 14. 暗褐色土
 - 15. 褐色土
 - 16. 暗褐色土
 - 17. 暗褐色土
- ローム漸移層
 - ローム粒の3mm 微量 しまり強い
 - ローム粒の1~2mm微量 焼土粒の1mm極微量
 - 1層より暗い ローム粒の2~5mm少ない
 - ロームブロックの7mm極微量
 - ローム粒子多い ローム粒の2~3mm多い
 - ローム粒の1~2mm少ない しまり強い
 - ローム粒子多い 焼土粒子少ない ロームブロックの2mm微量
 - ローム粒の1~3mm多い しまり非常に強い(足場?)
 - ローム粒子多い ローム粒の1~5mm多い
 - ロームブロックの7mm~2cm微量 焼土粒の2~5mm少ない しまりあり
 - 褐色土粒子多い 焼土粒、焼土ブロック(硬質)
 - 焼土層、下部には被熱した赤色粒
 - ローム粒子多い やや明るい
 - ローム粒子少ない ローム粒の1~2mm微量 11層より暗い
 - 暗褐色土粒子少ない 天井か?
 - ローム粒子、ローム粒の1~2mm多い 焼土粒の1~2mm少ない 焼土ブロックの1mm混入
 - 焼土粒1~5mm多い 焼土ブロックの6~2cm少ない
 - ローム粒子少ない ローム粒の1mm少ない 焼土粒の1~2mm微量
 - ローム粒子多い 焼土粒子少ない 焼土粒の1~2mm微量

FP003

- I. 表土
 - II b. 黒褐色土
 - II c. 暗褐色土
 - 1. 褐色土
 - 2. 暗黄褐色土
 - 3. 暗褐色土
 - 4. 褐色土
- ローム漸移層
 - ローム粒の1~2mm少ない 暗褐色土粒子多い
 - 暗褐色土粒子少ない 焼土粒の1~2mm極微量
 - ロームに似る
 - ローム粒子少ない ローム粒の1mm微量
 - 暗褐色土が斑状(木の根?)

■ 焼土・被熱範囲



第9図 大窪遺跡(2) 遺構、遺物実測図

表3 大窪遺跡(2) 出土遺物一覧表

| 調査区 遺構 | 遺物名称 | 点数 | 重量(g) | 内訳 |
|-----------|--------------|----|--------|--|
| FP001 | 縄文時代早期条痕文系土器 | 5 | 25.71 | 条痕文1点・7.24g、擦痕1点・5.22g、無文3点・13.25g |
| | 礫 | 1 | 247.46 | 流紋岩(完形) |
| FP003 | 縄文時代早期条痕文系土器 | 2 | 20.54 | 無文2点 |
| 1区 | 縄文時代早期条痕文系土器 | 32 | 299.03 | 野島1点・12.65g、条痕文10点・105.61g、擦痕3点・37.12g、無文18点・140.18g |
| | 縄文時代早期条痕文系土器 | 17 | 208.05 | 野島1点・11.97g、条痕文2点・16.07g、擦痕13点・111.34g、無文1点・68.29g |
| 3区 | 縄文時代早期条痕文系土器 | 40 | 244.54 | 野島1点・4.76g、条痕文5点・52.14g、擦痕32・173.89g、不明2点・13.75g |
| | 礫 | 2 | 271.30 | 流紋岩(完形)1点・178.15g、チャート(破片)1点・93.15g |
| 西端 | 礫 | 3 | 293.10 | 流紋岩(完形)1点・194.46g、砂岩(破片)1点・29.69g、石英斑岩(破片)1点・68.95g |

写真図版

福王丸塚古墳 中六遺跡 (19)



1. 福王丸塚古墳1 トレンチ完掘 (南東→)



2. 福王丸塚古墳1 トレンチ土層断面 (南西→)



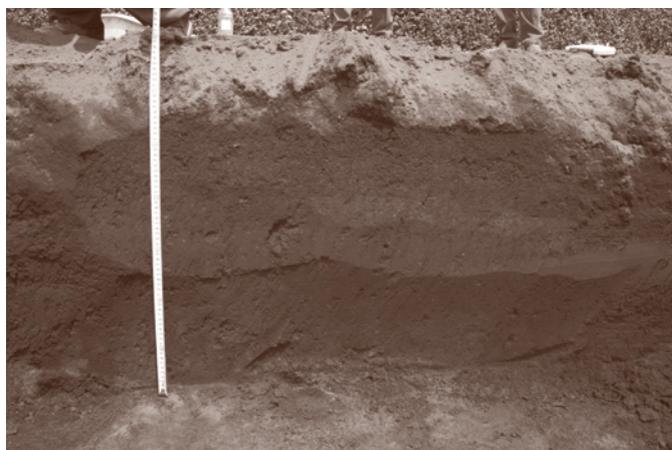
3. 福王丸塚古墳2 トレンチ完掘 (南→)



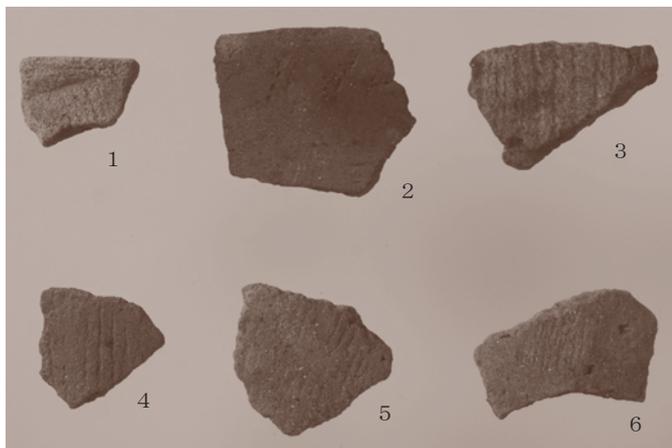
4. 福王丸塚古墳2 トレンチ北東端近景 (南→)



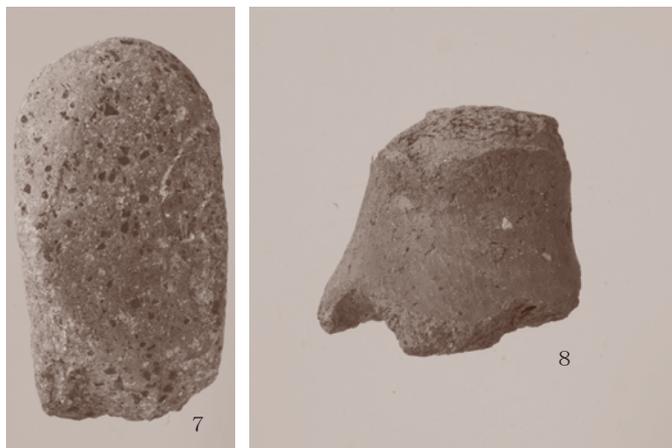
5. 中六遺跡 (19) 調査区完掘 (東→)



6. 中六遺跡 (19) 調査区土層断面 (南→)



7. 中六遺跡 (19) 出土縄文土器



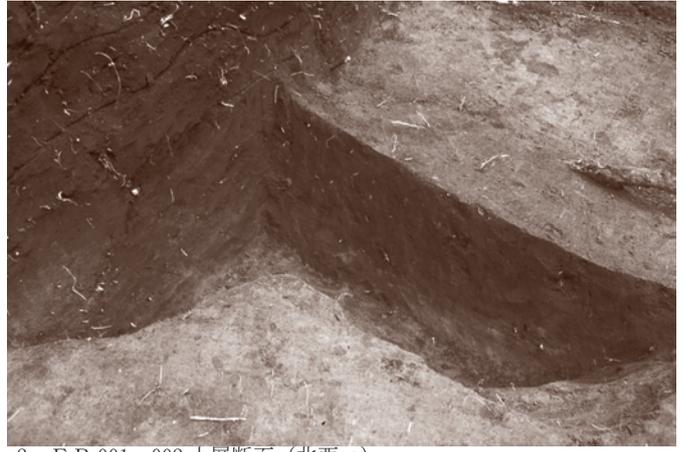
8. 中六遺跡 (19) 出土縄文時代石器

9. 中六遺跡 (19) 出土古墳時代土師器

大窪遺跡 (2)



1. 調査区全景 (南東→)



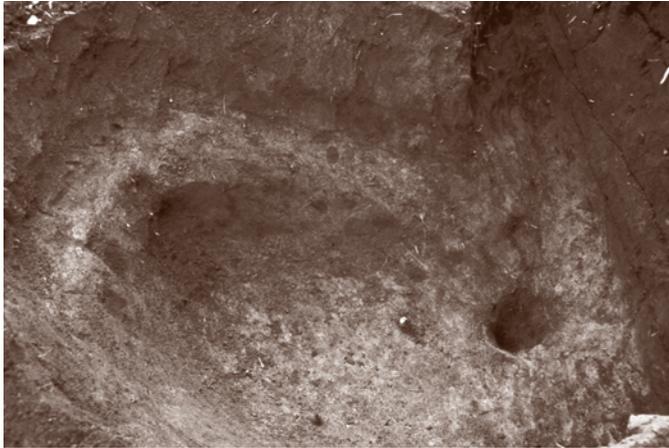
2. F P 001、002 土層断面 (北西→)



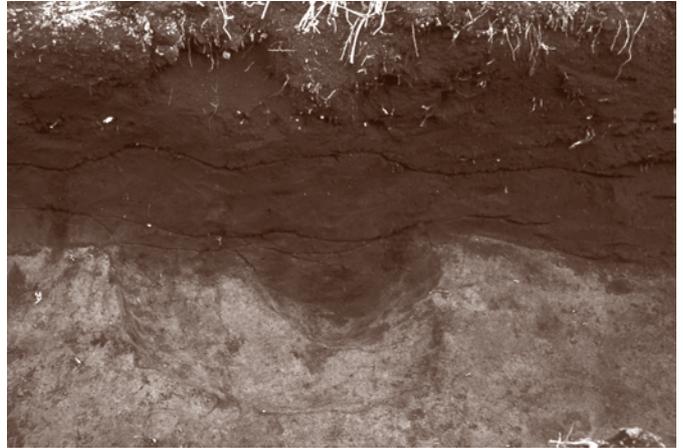
3. F P 002 土層断面 (西→)



4. F P 001、002 完掘① (西→)



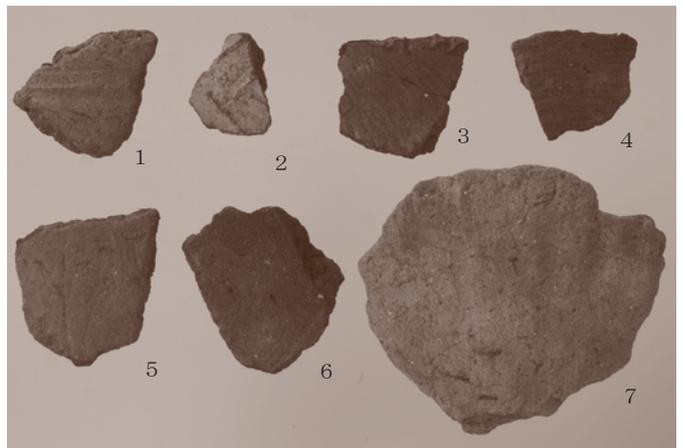
5. F P 001、002 完掘② (西→)



6. F P 003 完掘① (南西→)



7. F P 003 完掘② (西→)



8. 出土縄文土器

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|-----------------|------------------------------------|-------------------------|--|---------------------------|---|------------|
| ふりがな | ちばけんそでがうらし まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ | | | | | | | |
| 書名 | 千葉県袖ヶ浦市 埋蔵文化財発掘調査報告遺書 | | | | | | | |
| 副書名 | 福王丸塚古墳 中六遺跡(19) 大窪遺跡(2) | | | | | | | |
| シリーズ名 | 袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 27 | | | | | | | |
| 編著者名 | 田中大介・前田雅之 | | | | | | | |
| 編集機関 | 袖ヶ浦市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1 Tel.0438-62-2111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2016年3月29日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| ふくおうまるづか 福王丸塚 こふん 古墳 | そでがうらしふくおうだい 袖ヶ浦市福王台4丁目4番 16・22他 | 12229 | SG116 | 35° 26' 7" | 139° 58' 7" | 20120620 ～ 20120629 | 10 m ² / 112 m ² | 確認調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 福王丸塚 古墳 | 古墳 | 古墳 | なし | なし | 福王丸塚古墳推定範囲の周囲は大きく削平されており、遺構は確認されなかった。 | | | |
| 要約 | 福王丸塚古墳における初めての調査。古墳推定範囲の南側は大きく削平されており、今回の確認調査においては遺構、遺物は検出されなかった。 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| ちゅうろいせき 中六遺跡(19) | そでがうらしくらなみあざおおたに 袖ヶ浦市蔵波字大谷1,233番 15 | 12229 | SG031 | 35° 26' 6" | 140° 0' 26" | 20130819 ～ 20130820 | 7 m ² | 記録保存 調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 中六遺跡 | 包蔵地 集落跡 | 縄文時代 | 縄文時代早期遺物包 含層 1箇所 | 縄文土器、縄文時代石 器、古墳時代土師器 | 遺構は検出されなかったが、調査範囲全面で縄文時代 早期の遺物包含層が検出され、早期前葉燃糸文土器が比 較的多く出土した。 | | | |
| 要約 | 中六遺跡第19次調査で、縄文時代早期の炉穴群や古墳時代前期の集落が検出された第12次調査の東側隣接地の調査となる。縄文時代早期の遺物包含層が検出され、早期前葉燃糸文土器が多く出土した。また、古墳時代前期の遺物も少量出土したことから、縄文時代や古墳時代の遺構群がさらに東側に展開している可能性が考えられる。 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 遺跡番号 | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| おおくぼみいせき 大窪遺跡(2) | そでがうらしくらなみ 袖ヶ浦市蔵波2,520番地1 | 12229 | SG075 | 35° 26' 26" | 139° 58' 44" | 20140114 ～ 20140117 | 90 m ² | 記録保存 調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 大窪遺跡 | 包蔵地 | 縄文時代 | 縄文時代早期炉穴3 基、縄文時代早期遺 物包含層 1箇所 | 縄文土器 | 縄文時代早期後葉茅山下層式に属すると思われる炉 穴が3基検出された。 | | | |
| 要約 | 大窪遺跡第2次調査で、第1次調査区の北東側の調査となる。縄文時代早期後葉茅山下層式と思われる炉穴を3基検出し、第1次調査で検出された同時期の炉穴群がさらに北側の台地縁辺まで展開していることが明らかとなった。 | | | | | | | |

2016年3月22日 印刷
2016年3月29日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第27集

千葉県袖ヶ浦市
埋蔵文化財発掘調査報告書

福王丸塚古墳 中六遺跡（19） 大窪遺跡（2）

発行 袖ヶ浦市教育委員会
〒299-0292
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
電話 0438-62-2111
印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
〒292-0834
千葉県木更津市潮見4丁目14番4号
電話 0438-36-5361
